

新版教科書 クローズアップ

阿部 昇
秋田大学教授
光村図書中学校『国語』編集委員

平成二十八年年度版『国語』は、次の三つの柱を基本方針として編集しました。

① 身につける力がはつきりわかる教科書

② 言葉への感覚が豊かに深まる教科書

③ 「生きること」「生き方」を考える教科書

全国学力・学習状況調査で、国語が「好き」と答えた子どもは、小・中ともにほぼ二割にとどまっています。その最大の原因は、国語はどんな力がつくのかかわからないということにあります。確かな力が身につけていく国語は、楽しく知的刺激に満ちているはずです。しかし、これまでそれが十分にできてこなかったのです。

新版教科書では、どんな力がついたかわかる国語、言葉を学ぶことが楽しくなる国語、そして生きることを考える国語を実現します。

① 身につける力がはつきりわかる教科書

例えば小説は、出来事の発端、やま場、結末などを意識するだけで、ずっと深く楽しく読めるようになります。また、語り手に着目することで、小説の隠れた魅力が見えてきます。説明的文章も序論・本論・結論を意識し、その中心の文や段落に着目すると全体像が見えてきます。そして、それらの構成や論理の相互の関係を意識すると、文章の工夫も浮き上がってきます。「書くこと」「相手の反論を予想しながら書く」という方法を学ぶと、より説得力のある意見文が書けるようになります。

こうしたことを踏まえ、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」それぞれに教材を系統的に配列し、それに対応する

様なアプローチを工夫しました。

さらに、それらを広げる読書案内も充実し、これからの世界を生きる生徒たちにとって必須の情報教材も三学年に系統づけました。インターネット、新聞、テレビをはじめとするメディアとの関わり方も重視しています。

次ページからは、新版で目ざした三つの柱について、それぞれ特徴的な紙面をご紹介します。



形で「身につける力」を系統的に明示しました。その教材で学習したことが、次の教材で着実に生きる構造によって、確かな力が系統的に身につく教科書になっています。

② 言葉への感覚が豊かに深まる教科書

私たちは言葉で世界を豊かに捉え、言葉

③ 「生きること」「生き方」を考える教科書

国語の学習は、言葉の力を身につけ、言葉の豊かさを知ると同時に、「生きること」「生き方」を考える場でもあります。新版教科書は、小説、詩、古典などの文学作品、説明文、論説文、ノンフィクションなどの説明的文章で、中学生が自分自身の存在や人の生き方について考えられるように、多

あべのぼる
阿部 昇

1954年東京都生まれ。全国大学国語教育学会理事、日本NIE学会理事、日本教育方法学会常任理事、お茶の水女子大学COEプログラム国語学力検査責任者、秋田県検証改善委員会委員長。著書に、『文章吟味力を鍛える—教科書・メディア・総合の吟味』『授業づくりのための『説明的文章教材』の徹底批判』（以上、明治図書）など。



身につける力がはつきりわかる教科書

読みの観点を整理し、汎用的な力を育てる

「読むこと」学習用語のまとめ

各学年の巻末折込に、文学と説明文をより深く読み取るための観点となる学習用語と、その用例を当該学年の教材の中から抜き出してまとめました。

「走れメロス」を読んで、「人物像」につ

いて学習するなど、教材ごとに示されている観点を一覧にすることで、汎用的な読みの力につながるよう意図しました。

一年から、こうした学習用語（＝読みの観点）に着目して学んでいくことによって、三年の言語活動例に示されている「物語や小説などを読んで批評すること」の学習に

おいて、よりスムーズに批評の観点を見いだすことができるようになります。



当該学年での学習事項を中心に項目を挙げ、文章を読解していくおまかな手順として番号を付けています。

内容は、一般的な用語の定義にとどまらず、学習の手引きと連動させ、読み取り方の工夫まで解説しています。

教材中の用例を示し、具体的に理解できるように工夫しています。

文学的な文章を読むために（物語・小説）

ここでは、文学的な文章を読むための基本的な学習用語をまとめています。作品を読む際には、ここに挙げた項目を意識して、作品の描き出す世界を読み深めよう。

1 文学的な文章の種類

文学作品には、物語や小説・随筆などの散文、詩・短歌・俳句などの韻文がある。
物語や小説には、現実の世界を基にしたものの他に、現実にはない幻想的な世界を描いたファンタジー、科学の発想で空想的な世界を描いたSF（サイエンス・フィクション）、推理小説、歴史小説などさまざまなものがある。
一般的に、長いものを長編（小説、短編）を短編（小説）とよぶ。

2 題名

物語や小説の題名は、作品の舞台となる時や場所、登場人物の名前、作品を象徴する情景や事物、作者の心情を表す言葉などを織り込んで付けられることが多い。
題名の意味や付けられた理由を考えて読むことで、作品をより深く味わうことができる。
例「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」（光る地平線）
作品を象徴する情景を表している。
「大人になれなかった弟たちに……」
作者の心情を表している。

3 語り手

物語や小説は、語り手によって、話が進められる。語り手は、作品中の登場人物である「私」や「僕」などの場合が多い。例えば、「花曇りの向こう」では「僕」、「星の花が降るころに」は「私」が語り手である。
このような場合、情景や状況、物事や人の様子などは、語り手となった登場人物の視点に沿って語られることになる。そのため、作品が誰の視点から語られているのかを意識して、読むことが大切である。また、他の登場人物の視点から見た場合、描かれている出来事はどのような

4 構成

物語や小説は、次のような流れで構成されることが多い。
状況設定（導入）
作品の舞台となる時代背景や場所、登場人物やその置かれた状況などが示される。
出来事の発端・展開
ある出来事が起こるきっかけや、その経緯が示される。
やま場
状況が大きく動く場面。登場人物の心情や考え方が大きく変化する場面が多い。
結末
出来事の後半などが示される。余韻をもたせるなど、さまざまな工夫がなされる。

5 場面

作品の中で、時や場所、登場人物の組み合わせなどが同じ部分は、一つの場面として捉えることができる。それらの幾つかの場面が展開して、一つの作品となる。次のような部分に着目して、各場面とその展開を捉えよう。
一行空いている部分
文章が一行空けられている部分は、場面の変わり目や目次などが多い。ただし、その中でも幾つかの場面に分けられることがある。
例（年・季節・時間帯など）を表す言葉
「二年たつて、僕たちは、もう大きな少年になつてたが、」——「少年の日の思い出」
場所（地名・建物・風景など）を表す言葉
登場人物の出入りや移動が示されることもある。
例「私は戸部君を押しのけるようにして立ち上がる」と廊下に向かった」

6 登場人物の設定

「星の花が降るころに」

7 登場人物の心情

登場人物の心情は、置かれた状況を踏まえて、そのような心情になった理由と共に捉える。場面ごとの心情を押さえたなら、作品全体で心情がどのように変化しているかも捉えよう。
心情は、次のような点から考えられる。
感情を表す言葉や心の中で思ったことが語られる部分
例「うれしい」「悲しい」「満足」「不満」「胸がいっぱいだ」「気をもむ」（慣用句）
「心の中に春風が吹いたようだ」（比喻）
「これで極が全部散ってしまふな。」と言えばよかったとか、「花曇りって何」ときけばよかったとか、
「花曇りの向こう」
登場人物の行動・様子
例「お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそととてた」
——「星の花が降るころに」
会話文
会話文には、そのときの気持ちや、会話の相手への気持ちが表れる。会話文の前後に描かれる様子にも着目する。
例「私は戸部君をにらんだ。『なんか用？』」
——「星の花が降るころに」
情景描写
文学作品の中では、人物の心情を反映させて風景を描くことが多い。
例「晴れることを放棄したようなぼやけた空」
「白い乾いた一本道」
——「大人になれなかった弟たちに……」

8 音読・朗読

音読は、声に出して文章を読むことである。文学作品では、場面、登場人物の気持ちや人物像をよく理解して、それらが聞き手に伝わるように音読する。朗読は、作品に対する自分の解

説明的な文章を読むために

ここでは、説明的な文章を読むための基本的な学習用語をまとめています。文章を読む際には、ここに挙げた項目を意識して、内容の理解を深めよう。

1 説明的な文章の種類

説明的な文章には、さまざまな種類がある。文章の種類を意識して、その文章から何を読み取るのか、目的をもって読むことが大切である。
事実や事柄を正確に伝える文章
説明文・記録文・報告文 など
根拠に基づき意見や主張を伝える文章
意見文・論説・評論・批評文 など

5 中心的な部分・付加的な部分

文章の内容を的確に捉えるためには、中心的な部分と付加的な部分を読み分けることが必要である。
中心的な部分
段落やまとまりで、最も述べたいことが書かれた部分。段落やまとまりの終わりが始まりにまためられることが多い。「つまり」「すなわち」などの語句を使ってまとめられることがある。
例「つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸

7 表現の工夫

小見出し
まとまりの内容を短い言葉で示したものである。それぞれのまとまりにどのようなことが書かれているかを簡潔に表す。
例「観察のきっかけ」「観察からわかったこと」「仮説」「仮説の検証」「考察」
——「シカの落ち穂拾い」
図表・グラフ

手引きの「学習の窓」では、それぞれの教材に応じた読解の手がかりを示したうえで、巻末折込にリンクさせ、一覧で整理できるようにしています。

一年「星の花が降るころに」

学習の窓
人物の行動や情景描写から心情を読み取る
人物の心情は、会話や、心の中を説明した文章だけでなく、次のような行動や情景描写からも読み取ることができる。
・くると後ろを向く（112ページ8行目）
・暗い電灯の下で（112ページ8行目）
・空は高く高く青く澄んでいました（112ページ16行目）

学習の窓
場面の展開に着目して、人物の変化を読み取る
物語の場面は、時間や場所、中心に描かれている人物などによって分けられる。物語は、それらの場面がつながることによって、出来事の発端、やま場、結末などへと進む。
場面の展開に着目すると、人物の気持ちや、ものの見方、考え方の変化を整理してとらえることができる。

一年「大人になれなかった弟たちに……」



語彙力を高め、語感を磨く

言葉が増えれば、同じ景色を見ても違って見えてきます。また、言葉に敏感になれば、身の回りのものを見つめる目も違ってくるはずです。

一年冒頭の「言葉に出会うために」に掲げた文章では、次のように呼びかけました。

言葉の数だけ、世界は豊かに見えてくる。
言葉の数だけ、未来は希望に満ちてくる。
言葉の数だけ、自分の可能性が開かれる。

新版教科書では、この願いを生徒たちに届けるために、さまざまな教材化の工夫をしました。

言葉としつかり向き合い、言葉のもつ力を感じ取らせる教材、語彙力を高め、語感を磨きながら表現力を培っていくことができる教材、そして、日本の風土や季節感を言葉で味わう教材など、三年間でじっくり言葉を見つめていきます。

言葉を見つめる系列を新設

各学年の第三系列は、韻文、言葉に関する活動コラム、随筆・論説をセットとして構成しています。それらの教材を通して、言葉そのものを見つめ、言葉の力や価値、特性などを学びながら、言葉への関心、感度を高めていくことを目的としています。

▼韻文と解説 詩的な言葉遣い、言葉の組み合わせのおもしろさなどを通じて、言葉によって生み出される世界の豊かさを味わいます。

▼活動コラム「もつと伝わる表現を目ざして」 言葉を集めたり、分類したり、比較したりしながら語彙力を高め、語感を磨いていきます。

▼随筆・論説 言葉のもつ力を感じ取らせたり、考えさせたりすることをテーマとしています。

詩の言葉で豊かな心を

詩ならではの繊細な言葉遣いや表現に触れ豊かな心を育むように、各学年の各学期に詩教材を取り入れました。一学期は、朗読に適し、学年のスタートにふさわしい詩を置いていきます。

さらに、各学年に近代詩を新しく掲載し、格調高い言葉に触れ、味わうことができるようにしました。

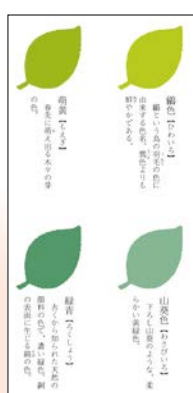
3年	2年	1年
春に…… 挨拶…… 初恋…… わたしを束ねないで……	見えないだけ…… 落葉松…… 鍵……	野原はうたう…… てがみ…… 太陽…… 魚と空…… 竹…… ぼくがここに……
谷川俊太郎 石垣りん 島崎藤村 新川和江	牟礼慶子 北原白秋 茨木のり子	工藤直子 寺山修司 八木重吉 木坂涼 萩原朔太郎 まど・みちお



言葉で味わう日本の感性

たくさんの言葉や表現を身につけていると、季節感もいっそう深く味わうことができます。そのために、四季折々に設けた「季節のしおり」をリニューアルしました。ぜひ暗唱してもらいたい有名な詩歌や、二十四節気の名称、季語を取り上げています。

また、各学年の後見返しには「色いろの言葉」として、日本の伝統色の名称を取り上げ、日本人が受け継いできた繊細な感覚を知ることができるようにしています。



▲各学年後見返し「色いろの言葉」



3年	2年	1年
【論説】「批評」の言葉をためる …竹田青嗣	【随筆】言葉の力 …大岡 信	【詩】詩の世界 言葉をつなぐ
【活動】言葉を選ぶ …宇多喜代子	【随筆】言葉を集めよう …山中 勉	【活動】新しい短歌のために …馬場あき子
【随筆】言葉を見つめる …大岡 信	【活動】言葉を選ぶ …宇多喜代子	【随筆】言葉を見上げて …山中 勉



▲3年「言葉を選ぼう」



▲各学年「季節のしおり」



未来を切りひらく力を育む

人の生きる姿を伝える

読書教材のうち、冬休み前をノンフィクションの系列として、同時代に生きる人間の姿を取り上げました。

いわゆる偉人伝ではなく、市井に生きる人々の生き方・考え方、職業観、使命感、ものの見方などを通して、「生きること」について真剣に考え、未来を切りひらく力を育むことを目的としています。

3年	読書に親しむ——世界の中で エルサルバドルの少女 ヘスース ……長倉洋海
2年	読書に親しむ——地域と共に 小さな町のラジオ発 ——臨時災害放送局「りんごラジオ」 ……高橋 厚
1年	読書に親しむ——伝統を生きる 桜守三代……鈴木嘉一



▲2年「小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」
「人々の『声』と共に泣き、共に笑い、共に前進していきたい」
津波で情報網や交通網が遮断された宮城県山元町。そこに住む元アナウンサーが、住民のために放送局を立ち上げたドキュメンタリー。



▲1年「桜守三代」
「桜は守りをせな、あきませんのや」
親子三代にわたって全国の桜を守り育ててきた佐野藤右衛門さんが語る言葉を軸に、桜にそそぐ愛情や、職業観、伝統への思いを伝える。



▲3年「エルサルバドルの少女 ヘスース」
「ヘスースは、自分の人生をたった一つのかけがえのない大切なものとして生きてきた」
難民キャンプで出会った一人の少女の笑顔と人生に20年伴走したフォト・ジャーナリストの記録。



情報社会を生き抜く力

「情報活用力」を育成するために、情報に関する教材を三年間の系統性をもたせ、ステップを踏んで力を身につけることができるようにしました。

一年では、身の回りにあふれるたくさんの情報の中から、自分にとって必要な情報、相手や場に応じた情報を的確に選び取る力、二年では、メディアの特性を考えながら、集めた情報を吟味できる力、三年では、情報を発信する意義や注意点を学びます。

さらに「インターネットを利用する」「著作権について知る」などについても、コラムとして気をつけるべき点をまとめています。

3年	情報の集め方を知ろう 活動 さまざまな方法で調べよう コラム①本から情報を集める ②インターネットを利用する ③新聞の紙面構成の特徴を知る メディアと上手に付き合うために ……池上 彰
2年	活動 いろいろなメディアから得た情報を比べよう コラム 著作権について知る 「想いのリレー」に加わろう ……藤代裕之
1年	活動 「情報発信」について考えよう



▲2年「いろいろなメディアから得た情報を比べよう」



テレビの試合中継
選手の動きや表情、観客の様子を映像で見ることができ、放送される試合が決まっているため、常に見たい試合を見られるわけではない。



新聞の報道記事
試合の経過や結果などの事実の他、選手の動きやプレーに関する解説や分析などを詳しく知ることができる。また、何度も読み返せる。



インターネットのウェブサイトを
ニュースサイトでは、試合結果を比較的早く知ることができる。個人のウェブサイトで、さまざまな意見や感想を知ることができる。



▲3年「情報発信」について考えよう」



▲1年「情報の集め方を知ろう」

文学教材一覧

（は新教材）

1年	2年	3年
詩 野原はうたう 工藤直子 物語 花曇りの向こう 瀬尾まいこ 詩 詩の世界 てがみ 太陽 魚と空 木坂 涼 【読書】 光る地平線 魚住直子	詩 見えないだけ 牟礼慶子 小説 アイスプラネット 椎名 誠 短歌 新しい短歌のために 馬場あき子 短歌を味わう 【読書】 世界で一番の贈り物 マイケル・モーパールゴ	詩 春に 谷川俊太郎 小説 握手 井上ひさし 俳句 俳句の可能性 宇多喜代子 俳句を味わう
物語 星の花が降るころに 安東みきえ 【読書】 光る地平線 魚住直子	小説 盆土産 三浦哲郎	詩 挨拶——原爆の写真によせて 石垣りん
物語 大人になれなかった弟たちに…… 米倉斉加年	随筆 字のない葉書 向田邦子	小説 故郷 魯迅
近代詩 竹 萩原朔太郎	近代詩 落葉松 北原白秋	近代詩 初恋 島崎藤村
小説 少年の日の思い出 ヘルマン・ヘッセ	小説 走れメロス 太宰 治	詩 わたしを束ねないで 新川和江
詩 ぼくが ここに まど・みちお	詩 鍵 茨木のり子	【資料】 随筆 温かいスープ 今道友信
【資料】 小説 坊っちゃん 夏目漱石	【資料】 小説 ゼブラ ハイム・ポトク	【資料】 小説 蟬の声 浅田次郎



▲1年「花曇りの向こう」



▶1年「光る地平線」

今を生きる生徒たちの日常生活を題材にした作品から、世代を超えて読み継がれ、普遍的な価値をもつ作品まで、バランスよく教材を配置しました。

磨き抜かれた表現に触れる

生徒が言葉の多様さ、豊かさ、深さを感じることが出来る優れた作品を選んでいきます。そうした表現に触れることで、生徒の語感が磨かれ、自らの表現にも生かそうとする意欲が湧くように教材化しました。

説明文教材一覧

（は新教材）

1年	2年	3年
説明 ダイコンは大きな根？ 稲垣栄洋 説明 ちょっと立ち止まって 桑原茂夫 記録 シカの「落ち穂拾い」——フィールドノートの記録 辻 大和	説明 生物が記録する科学 バイオロギングの可能性 佐藤克文 論説 モアイは語る 地球の未来 安田喜憲	説明 月の起源を探る 小久保英一郎 論説 新聞の社説を比較して読もう
説明 幻の魚は生きていた 中坊徹次	評論 君は「最後の晩餐」を知っているか 布施英利	論説 作られた「物語」を超えて 山極寿一
【読書】 ノンフィクション 桜守三代 鈴木嘉一	【読書】 ノンフィクション 小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」 高橋 厚	【読書】 ノンフィクション エルサルバドルの少女ヘスース 長倉洋海
【資料】 説明 流水と私たちの暮らし 青田昌秋	【資料】 説明 五重の塔はなぜ倒れないか 上田 篤	【資料】 随筆 アラスカとの出会い 星野道夫



▲2年「生物が記録する科学」



▲2年「科学はあなたの中にある」

多様な分野・文章構成の教材を

自然科学をはじめ、哲学や美術といった幅広い分野の文章を取り上げました。また、統括型、尾括型、仮説を立ててそれを検証していく型など、題材に適した多様な展開・文章構成を工夫しています。

状況を考える力を

「科学はあなたの中にある」（二年）「作られた『物語』を超えて」「誰かの代わりに」（三年）は、「考えること」をテーマとした教材です。現代社会における課題を取り上げ、社会への関心を高めるとともに、自分の生き方・考え方を見つめることができます。